

平成7年度宝くじ助成事業成果概要

業 務 部

河川は水と緑のオープンスペースとして、うるおいとやすらぎの場、レクリエーションと憩いの場などの役割を担っており、河川空間の種々の機能に対する期待と要請が一層増大している。

このため、良好な水辺空間の形成を図っていくことが益々重要となっており、河川改修を行う際、河川がもっている治水、利水、生態系、景観性、親水性等の多機能を生かした多自然型川づくりや水辺空間整備が行われている。

このような多自然型川づくりや水辺空間整備の活発な展開を図るため、事業への理解、効果、必要性等の広報活動を通して、河川愛護意識の普及をはかっていくことが重要である。

(財)日本宝くじ協会からの助成事業による水辺広報活動は、昭和62年度からスタートし、平成7年度は51,440千円の助成金を受け水辺空間に関する広報と併せて宝くじ事業の公益性に関する一般の方々の理解を深める目的で事業を実施している。

1. アメニティ・リバーフロント施設の設置

水辺空間整備を実施している地区において、アメニティ・リバーフロント施設（うるおいのある水辺空間の向上を図るため記念碑・塔・噴水等の施設）を設置することにより、さらに水辺空間の魅力が増し、地域の人々から親しまれることを狙いとして、次の2箇所に設置した。

①内 川（大阪府堺市）・ブロンズ像「水辺の思い出」



内川（堺市）・ブロンズ像「水辺の思い出」

②旧袋川（鳥取市）・ブロンズ像「春の小川」

2. パンフレット等の作成

パンフレット等は、次の6点を作成し、国、地方自治体等に配布した。

- ①「水辺空間整備」のパンフレット作成
- ②川とつながりをもつ歴史・伝承・文化に関連する北陸の主要な川のリバーガイドマップ作成
- ③「人と自然にやさしい川づくり」をキャッチフレーズとしたポスター作成
- ④「川と植物Ⅱ」をキーワードにしたカレンダー作成
- ⑤「人と自然にやさしい川づくり国際シンポジウム」の講演集作成
- ⑥「フィールド総合図鑑～川の生物～」の作成

平成8年度も昨年度に引き続き宝くじ助成金を受け、水辺空間整備に関する広報活動事業を行う計画であり、特にアメニティ・リバーフロント施設は、水辺空間の景観等にマッチしたモニュメントとして位置づけることが多く、当センターが設置し、完成後速やかに市町村に寄贈することとしている。

なお、アメニティ・リバーフロント施設等の詳細は、業務部におたずねください。



旧袋川（鳥取市）・ブロンズ像「春の小川」